

北摂の最新レストラン情報から酒場、名物～能勢街道の話まで

大人の愉しい食マガジン

あまから手帖

豊中 吹田 池田 箕面 高槻 茨木 摂津

5

北摂そだち

amakara techo
2018. May

定価800円

有名店からニュース 続々
地元そだちの
名物ものがたり
北摂酒のある風景



【ルポ】いま山がおもしろい／能勢街道をゆく

【コラム】北摂そだち！な ワイン／ビール／焼肉

関西だけの この宿とまれ



神戸 みなと温泉

連
れ
ん

文／団田芳子

だんだよしこ●大阪生まれ。フリーライター、旅行ペンクラブ会員。2017年より、故・藤巻彰英氏から『小宿の会』塾長を引き継ぐ。執筆・講演の二大テーマは『大阪の食』と『旨し宿』。著書に『大阪名物』『関西名物』(創元社・共著)、『ポケット版大阪名物』(新潮社・共著)、『小宿あそび』(クリエテMOOK)。現在、新著『私がホーツアした旨し店 大阪』(西日本出版社)が絶賛発売中。関西テレビ『よ〜いドン!』、ラジオ関西『羽川英樹のハッスル』出演中。





赤白黄色、緑青。瞬く色とりどりの光が水面に映り、時を忘れて見入ってしまう。“自分の部屋”のリビングで、ソファに身を沈めて眺められるのだから、これ以上の贅沢はない。上左より四季折々の風景が楽しめる回遊式庭園／落ち着いた雰囲気のロビー。／オーシャンスイートの展望半露天温泉と寝室。



THE 神戸の夜景に ときめく和モダン温泉宿

学生時代、デートスポットだった神戸。

クライマックスは、六甲山から眺める
煌めく夜景だった。

今では仕事に遊びに身近な街になつたが、
夜景をゆったり眺めるのは、いつ以来か。

「鉄塔の美女」と称される神戸ポートタワーに、
白い大屋根の神戸海洋博物館のカップル、
波を象ったというメリケンパークの

オリエンタルホテルにモザイク…。
神戸ウォーターフロントを代表する

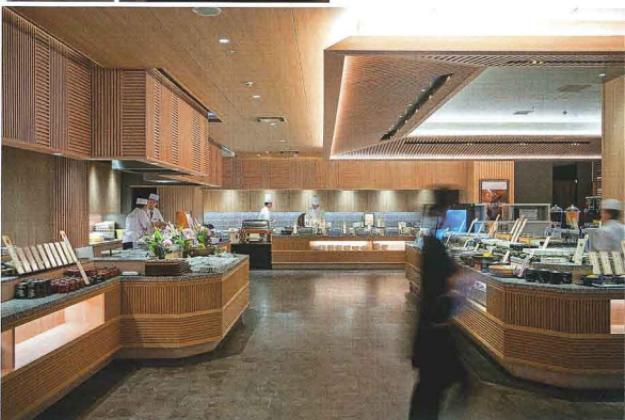
あれもこれもが目の先で輝いている。

「昔は第一突堤は立ち入り禁止だったから、
この角度は初めて」と、神戸育ちの
シルバー世代もため息を吐くこの眺め。

リゾートホテルと温泉旅館が融合した
モダンな宿のスイートルームより。



上段左より／明石の天然鯛のちら蒸しは、ポン酢もいいが、そのままおだしでいただいく良し。／ブッフェ料理に加え、ライス感満載で寿司も握れば、天ぷらも揚げるが、『ライブ割烹 万遠』の魅力。下段左より／総料理長の島さん自ら、お客様を満面の笑みでお出迎え。マニュアル通りじゃない心ある接客がいい。



近場に魅惑の港の湯

3月号で訪れた奈良公園の「江戸三」で、超近場の宿遊びに味を占めた。

昔は週末弾丸スキーやら、何なら海外へひとつ飛び——なんてこともやったもんだが。今じや、とてもじやないが体力が付いていかぬ。その上、日本の交通費はとにかく高い。

しかし待て。見回してみれば、全国から観光客が訪れる宿は、すぐ手の届くところ。そう、数百円単位の交通費で行けるではないか。そしてそれは、

遠足やデートで行っただけで分かった気になつていては、勿体ないくらいの『街の魅力』を持ついたりするのだ。

三宮から無料シャトルバスで5分。かつて海軍操練所があった神戸の海に温泉が掘り当てられた。「ここは、さつと港町として発展して代が高騰するから、今がお買い得だぜ」と喝破いう勝海舟だって、まさか予見できなかつたであろう。

それにしても、バスは満員御礼だ。多くは右の暖簾を潜つていく。あちらは日帰り客だそうな。屋外温水プールに岩盤浴・溶岩浴、フィットネスにヨガ、台湾足つばマッサージ、仕上げは天然

温泉。食事も楽しんで丸一日過ごすリピーターが、たくさんいらっしゃるらしい。宿泊者は、落ち着いたロビーチェックイン。今回はオーシャンスイート、源泉掛け流し半露天風呂付き最上階122畳という広やかな貴賓室と張り込んだ。と言いたいところだが、これが60畳のスタンダードなシーサイドデラックスに1万円ほど上乗せるだけなのだ。交通費分だと思えば、この贅沢は何ほどもない。

リビングのソファにゆったりと身を預けつつ、『これぞ海の神戸』な景色を一望に見渡す。ベッドルームにはセミダブルサイズのシモンズのベッド。浴衣にパジャマまで、アメニティーもバッチリ揃つて、2人で占有しても1人3万円ほど。何かの人気ランキングで、コストパフォーマンス部門第1位を獲得したというのも頷ける。

しかも天然温泉だ。まずは、1階大浴場にて体感。『海洋性ミネラル』たっぷりの湯は、都会の真ん中にありながら、なかなかに滑らか。露天風呂も、深浅の檜湯に寝湯など変化に富んでおり、驚くほど広い。日帰り客も多いはずだが、案外ゆったりのんびりで



上段左より／神戸牛すき焼きもブッフェ料理の一つとして選べる。夢前町の卵で、追加料金で、神戸牛ステーキのオーダーも可。／ブッフェ料理には但馬、播磨、丹波、攝津、淡路と地元五国の食材を使った料理を紹介。下段左より／淡路の玉ねぎと神戸ポークのジンジャーソース。／ローストビーフは好きなだけ切り分けてくれる。下／展望風呂の目の前に、「さあ湯上がりに一杯どうぞ」とバーの入り口が。この誘惑を無下にできるはずがない。10階、展望バー、オリジナルカクテル「灘ごころ」1000円。日本酒をベースに、ブルーベリージュースとアロエベラジュースで健康志向のカクテル。



展望バーで。窓枠のない大きなガラス越しに広がる、暮れなむオーシャンビューを肴にカクテルグラスを傾ける。灘五郷の蔵出し直送・限定酒を使つたオリジナル「灘ごころ」は、アマレットの甘い香りとベルベットのような口当たりで洒落たひとときをくれる。

食事は、スイートルームなら部屋食もできるが、宿泊者専用「ライブ割烹萬連」へ。ブッフェ料理がズラリと並

きるのは、中学生以上（宿泊は小学生以上）という設定のお陰か。いわゆるスーパー銭湯の脳天やからは無縁だ。パウダールームもプライベートブースが設けられており、くるくるドライヤーやコテまで用意されて、女子が手ぶらで来られるほどに行き届いている。

湯上がりの一杯は、宿泊者限定の展望バーで。窓枠のない大きなガラスなど和食二筋30年、島武行さん。大皿に彩りも美しく盛られた炊合せや鮨の西京焼きなど、ブッフェ料理にも和の風情が織り込まれている。何よりコックの料理人、サービスの方々が朗らかで…。

大きなホテルはシステムティックで心を感じないと思い込んでいたが。こちらは、ホテルの快適さと温泉宿の優しさを併せ持つて、小宿好きも上機嫌。

ぶも、「ライブ」と銘打つだけあって、ローストビーフの切り分けはもちろん、天ぶらも通し揚げ、寿司なら好みのネタを握ってくれる。4・5月は明石の天然鰯も登場。アラのおり蒸しは、優しい味わいの自家製ポン酢でいただく。

地産地消を調い、神戸牛すき焼きなど和食二筋30年、島武行さん。大皿に彩りも美しく盛られた炊合せや鮨の西京焼きなど、ブッフェ料理にも和の風情が織り込まれている。何よりコックの料理人、サービスの方々が朗らかで…。

港の歴史に想い馳せ



(旅のお土産)

【ル・パン神戸北野】

瀬戸内レモンケーキ(1個)220円(税込)。瀬戸内レモンのコンfitが混ぜ込まれたスponジに、チョコレートで薄くコーティング、口だけきいでレモンの風味が爽やか。同店が作るウエルカムスイーツのクッキーもシンプルな味わい。700円(税込)。どちらもロビー横のショップで購入可。



神戸みなと温泉 蓼

- 神戸市中央区新港町1-1 ☎ 078-381-7000 Ⓛ 15:00~、out ~ 11:00 Ⓜ 各線三宮駅から無料シャトルバス5分 (☎ 280台) (宿泊は1000円、日帰りは無料) Ⓛ 90室 Ⓛ テラスにて喫煙可 Ⓛ ほぼすべて可 Ⓛ オーシャンスイート 31500円~、ハイバースイート 27500円~、シーサイドデラックス 20000円~ (1泊2食付き、1室2名利用の場合)。



上／朝食ブッフェで一番人気は、漢方薬膳粥。紅花、クコの実、百合根と白木耳、ハスの実と菊花、ショウガ、尖山椒と6種の薬草と共に、御食事処「水蓮」では、写真のように土鍋で提供。1200円。厚労省認定「温泉利用型健康増進施設」ならではのヘルシーナ朝食だ。左／展望大浴場には内風呂の屋内大浴場、外風呂には展望露天風呂のジャグジーと展望風呂がある。

フェリーやクルーズ船が、白い航跡を引いて行き交うのを、温泉に浸かりながら眺める。ジャグジーの泡に包まれて、見上げる空を神戸空港へ着陸するらしい飛行機が低く横切っていく。朝湯は、屋上の展望風呂へ。港の風景に、ふと一度行ったきりのハンガリー・ブダペストの温泉ホテルを思い起こす。神戸は心をヨーロッパに飛ばしてくれるもんだ。

古くは大輪田泊と呼ばれ、中国や朝鮮との国際貿易の拠点であった。平安期の平清盛による大改修は、歴史の教科書にも載っていたが、今はどうだろう。国際港としての歴史は長い。

朝湯は、大輪田泊と呼ばれ、中国や朝鮮との国際貿易の拠点であった。平安期の平清盛による大改修は、歴史の教科書にも載っていたが、今はどうだろう。国際港としての歴史は長い。

朝湯は、大輪田泊と呼ばれ、中国や朝鮮との国際貿易の拠点であった。平安期の平清盛による大改修は、歴史の教科書にも載っていたが、今はどうだろう。国際港としての歴史は長い。

勝海舟と坂本龍馬が海軍操練所をここに開いたのは元治元年、1864年だ。明治の開港と共に荷揚げ港としてだ。大震災の記憶はまだ新しいが、神戸は美事に蘇り、開港150年を迎えた。

大きな汽笛に、我に返る。馴染みの神戸で、その歴史に想いを馳せることは無かつたが、考えてみれば、夜遊びはしても、神戸の朝は初めてだし、ゆっくりと一泊したのも初めてかもしれない。安近短な旅、やはり存外にいい。